

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮西小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>＜学習上の課題＞ 算数「変化と関係」においての速さの変換 算数「数と計算」における四則に関する成り立つ性質 ＜指導上の課題＞ 個人差が大きい。反復や振り返りの時間が十分に確保できていない。</p>	<p>ループリック目標を立てることで、児童が主体的に学習に関わり、学び方の選択を行えるよう授業を展開していく。【各単元】 計算タイムの時間を使い、既習の振り返りや前学年の復習などドリルパーカや計算ドリル、プリントを用いて児童の頃きに早く気付か、個別指導を行っていく。【週1回】</p>
思考・判断・表現	<p>＜学習上の課題＞ 算数「変化と関係・データの活用」における読み取り 算数全般において自分の考えの説明 ＜指導上の課題＞ 考え方をもとでそれをうまく表現できない。語彙力が低い。</p>	<p>出題された問題を全体で分析し、何を聞かれているのかを確認してから問題解決を行っていく。【毎授業】 授業の振り返りを行い、自分の考えを整理し、順序立てて授業で理解したことを表現させていく。【毎授業】 自分の考えをオクルック上に提出することでクラスで共有するとともに友達の考えにも触れられるようにする。【毎授業】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	<p>①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等</p>	
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では話合いの記録の書き表し方を問う問題で適切なものを選択したり、正しい漢字を書いたりすることに課題が見られた。算数においてはグラフの読み取りや単純な計算については正答率が高い傾向にあるものの、台形を選ぶ問題では、台形の定義がしっかりと定着していないせいから、自分のイメージする形を選択する児童が多く、正答率が極端に低かった。また量りの目もりを読み取る問題では目もりがいくつかを把握せず、多くの児童が正しく解答できなかった。理科においては電気を通すもの、磁石に引きつれるものや顕微鏡の正しい使い方において課題が見られた。多くある情報から必要な情報を選択する力とともに、基礎的な知識を習得することに課題が見られた。	
思考・判断・表現	国語では記述問題において与えられた条件で文章を書くことで課題が見られた。算数においては全体的に思考・判断・表現の問題は正答率が低い傾向が見られた。特に正しい方を理由を添えて答える問題では正しい方を選択できたにもかかわらず、それを説明することができない児童が多く見られた。理科では水の状態変化の知識はあるものの、それを生かして思考することを苦手にする児童も見られた。	聞かれておりることに対して正しく答えることや自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝える力に多くの課題が見られた。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	
知識・技能	B	ループリック目標を自分で決定し、自分の目標を達成できるよう授業を展開している。朝学習の時間にドリルパーカやプリントを用いて復習に取り組んでいるが、今学習している単元の復習がメインになってしまっているので、全学年の復習も行い、基礎学力の定着を図りたい。	問題読解を深めるため、文章をしっかりと読み込めるよう読書活動の充実を図る。【読書時間】
思考・判断・表現	B	オクルック等を用い、自分の考えを伝えたり、友達の意見を共有したりすることができた。問題を全体で確認しながら取り組んできたが、一人ひとりがしっかりと何を問われているのかを把握させてから問題解決に取り組んでいきたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)